

## M3T-NC30WA V.5.20 Release 1 ご使用上のお願い

M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, R8C/Tinyシリーズ用Cコンパイラ(アセンブラ・統合開発環境付き) M3T-NC30WA V.5.20 Release 1の使用上の注意事項を連絡します。

- 標準ライブラリ関数strcpyに関する注意事項

### 1. 内容

far領域にある文字列をnear領域へあるいはnear領域にある文字列をfar領域へ標準ライブラリ関数strcpyを使ってコピーするとプログラムが正常に動作しない場合があります。

### 2. 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) 最適化オプション-O3、-O4、-O5、-ORおよび-OSのいずれかを指定している。
- (2) 最適化オプション-Ono\_stdlibを指定していない。
- (3) 標準ライブラリ関数strcpyを使用している。
- (4) strcpy関数の引数には、以下のいずれかを指定している。
  - ・ 第一引数にnear領域へのポインタ、第二引数にfar領域へのポインタを指定。
  - ・ 第一引数にfar領域へのポインタ、第二引数にnear領域へのポインタを指定。
- (5) NULL文字を含めて偶数個の文字列をコピーしている。

### 3. 発生例

```
-----  
#include <string.h>  
int a[10];  
void func(void)  
{  
    strcpy(a,"abcde"); /* 発生条件(3)、(4)、(5) */  
}
```

}

#### 4. 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

(1) 最適化オプション-Ono\_stdlibを指定する。

(2) 標準ライブラリ関数strcpyを改修する。

以下の手順でライブラリソースファイルnfstrcpy.cおよびfnstrcpy.cを編集し、標準ライブラリファイルnc30lib.libを再作成する。

a. nfstrcpy.cファイルの70行目を以下の2行に置き換える。

```
-----  
_asm(" mov.w $$[FB],R0",s1);  
_asm(" exitd");  
-----
```

b. fnstrcpy.cファイルの71行目を以下の3行に置き換える。

```
-----  
_asm(" mov.w $$[FB],R0",s1);  
_asm(" mov.w $$+2[FB],R2",s1);  
_asm(" exitd");  
-----
```

c. MS-DOSコマンドラインで以下を実行する。

```
make -f makefile.dos<ret>
```

標準ライブラリファイルnc30lib.libが再作成されます。

d. c.で作成したnc30lib.libを環境変数LIB30が示すディレクトリにコピーする。

※ 各ライブラリソースファイルおよびmakefile.dosは、コンパイラのインストール先ディレクトリ¥src30¥libにあります。

#### 5. 恒久対策

本現象は、次期バージョンアップで改修する予定です。

---

#### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

